



(八坂中学校フォトコンテスト最優秀賞:「神出(じんで)の滝」撮影:北澤豊繁さん 記事:8頁)

1月号の記事

新年のご挨拶	2
地域づくり協議会の活動	3
日赤八坂分団講習会ほか	4
地区活動	5
定住促進住宅・たけのこ保育園	6
八坂小学校	7
八坂中学校・山留の風	8
コミュニティースクール	9
八坂公民館	10~11
話題の八坂人・編集後記	12

明けまして おめでとうございます。
令和3年の新年を迎え、今年一年が皆様にとって、良い年でありますようご祈念申し上げます。

表紙の写真は、八坂中学校生徒会が主催となり行われましたフォトコンテストで、最優秀賞に選ばれました北澤豊繁さんの作品「神出(じんで)の滝」です。本来は「神田(じんで)の滝」と呼ばれているところですが、北澤さんは畏敬の念を込め「神出の滝」という題名にしました。荘厳な雰囲気を出すため、冷たい川の中に入って苦心して撮影したそうです。

八坂地区の人口: 788人
(男392・女396 高齢化率37.56%)
八坂地区の世帯: 357世帯
(令和2年12月1日現在)

新年のご挨拶



八坂地域づくり

協議会長

北澤 伸夫

新年あけましておめでとうござ
います。年頭にあたり、新年のご
挨拶を申しあげます。

日頃は当協議会の活動にご支援
ご協力を賜り、心より感謝申しあ
げます。昨年は新型コロナウイルス
感染症の影響で、予定しており
ましたイベントの中止や縮小を余
儀なくされ、活動の制約を受けた
ことは誠に残念でした。

協議会の主な活動状況をご報告
しますと、明野地区への太陽光発
電事業につきましては、地域の皆
さんの安全・安心を担保とする
県・市・開発業者・協議会の4者
による協定書を締結し、定期的な
現地確認を含め監視体制を継続し
ていきます。

陳情活動につきましては道路関
係、砂防関係、行政関係の各省庁
へ懸案事項の早期実現について要
望を行い、また昨年3月に発生し
た川手地区の長時間停電対策とし
て、電力の安定供給について中部
電力大町サービスステーション所
長に対して要望を行ったところで
あります。

八坂ビューポイント整備の活動

では、さまざまな周辺整備や唐花見
湿原の環境整備、八坂商工倶楽部
との合同により、相川トンネル展
望公園の花植え等を行い、移住者
の皆さんも参加し交流を深めるこ
とができました。また、昨年正式
に発足した八坂ボランティア隊の
皆さんにも応援していただきまし
た。

定住促進の活動では、栃沢地区
に2棟の新築住宅が完成しました
ので、子どもを含めた人口増が予
想され自治会振興にも貢献できる
と期待しております。

さて、今年は大町市で北アルプ
ス国際芸術祭の開催が計画されて
います。八坂地区にもアートが設
置されますが、コロナ禍が収束し
来場者で賑わうイベントになるこ
とを祈りたいと思います。

八坂地区も人口減少、少子高齢
化が進む現状ではありますが、住
民の皆さんが安心して暮らせ、八
坂に誇りを持てるよう活動を取り
組んでまいりたいと考えており、
住民の皆さんのご支援ご協力をお
願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして良き年
となりますようご祈念申し上げ、
新年のご挨拶いたします。



新年のご挨拶

大町市八坂支所長 牛越光夫

新年あけましておめでとうござ
います。日頃は、八坂支所への、
格別なご理解とご協力を賜り、心
から感謝申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルス
感染症が、年明け早々に世界中
に拡大し、国内でも学校の休校や
飲食業の営業時間短縮、東京オリ
ンピックを始めとするイベント開
催の自粛や延期など、今までにな
い状況となり、皆様におかれまし
ても、緊迫した状況だったと思い
ます。また3月中旬には、市内
に感染者が出るなど、普段の暮ら
しが急変する一年となりました。

八坂地域内においても、「老人
スポーツ大会」や「敬老会」など
高齢者が多く集まるイベントや、
帰省者の参加や飲食を伴う「八坂
夏祭り」については、安全を確保
できないという理由で中止となり
ました。夏を過ぎ9月に入り、
第2波が収まりイベント等の規制
が緩和した頃、八坂公民館主催の
「ふれあい運動会」は地域の参加
が見送り、八坂小学校とだけのこ
保育園での開催となりました。ま
た10月下旬には、感染予防の対

策を十分に講じた中で「八坂地区
文化祭」が開催され、多くの地域
の皆様にご参加いただき、楽しん
でいただくことができました。

しかし、11月中旬から、第3波
を迎えるなど、気を緩めることが
できない状況が続いています。し
かも、この新型コロナウイルス感
染症のワクチンや治療薬の開発に
は、まだまだ時間が掛かるとも言
われております。皆様におかれま
しては、新たな年を迎えた訳では
ありませんが、コロナ禍における

『新しい生活スタイル』で、十分
に気を付けていただいてこの局面
を乗り越えて頂きたいと思いま
す。支所としても、昨年、開催出来
なかったイベントについて、コロ
ナ禍の中でも、開催時期や開催方
法を変えるなど、どの様に対策を
すれば出来るのかを職員一丸とな
り検討を進めてまいります。コロ
ナ禍以前の生活スタイルに戻るの
は、まだ先の事と予想されますが、
従来と違った形となっても何とか
開催できるよう努力していきたい
と思います。

最後になりますが、今年一年が、
皆様にとって良い年になりますよ
うご祈念申し上げ、新年のご挨拶
とさせていただきます。



地域づくり協議会の活動から

期 日	区 分	内 容 等
10/20	北アルプス地域振興局への要望活動 大町市長への要望活動	(下記参照)
11/5	第4回地域振興部会	・田舎暮らし体験ツアーについて ・移住者との交流会について
11/17	第4回やさかだより編集会議	・やさかだより1月号の編集会議
11/19	第3回八坂地域づくり委員会	・八坂地域振興バスの運行経路の検討について
11/29	日赤奉仕団八坂分団研修会	・コロナ禍における避難所体験ゲーム
12/17	第4回八坂地域づくり協議会 第4回自治振興会長会議	・防災講習会の開催について ・令和3年市連合自治会役員の選出について
12/15 ～12/31	年末の交通安全運動	・交通安全協会事業所訪問 ・街頭指導

地域づくり協議会の陳情活動



10月20日(火)、正副会長が北アルプス地域振興局を訪問し、諏訪県議にも同席いただくなかで、滝沢局長に対して昨年7月に発生した塩沢川上流の土砂災害対策に関する陳情活動を行いました。また、同日に大町市長に対しても陳情活動を行いました。市への陳情内容は次のとおりです。

1 過疎対策への取り組み

- ・定住促進住宅建設事業の継続
- ・有害鳥獣被害対策事業の継続、強化
- ・松枯れ対策の推進
- ・過疎指定地域に対する補助率等の見直し

2 市道等の整備

①道路改良

- ・市道一の瀬切久保線
- ・市道相川四辻線
- ・市道栃沢上村線

②道路等の修繕

- ・市道小松尾線（舗装）
- ・市道横瀬小松尾峰線（路肩崩落）
- ・舟場新切線（ガードレール）

3 県関係機関（県林務課、犀川砂防事務所）への働きかけを要望

- ・塩沢川上流の土砂災害対策

4 電力会社への働きかけを要望

- ・災害に強い電力供給網の整備



やさかボランティア隊の活動を紹介

「ぼくらの市民活動フォーラム」でパネルを展示



「ぼくらの市民活動フォーラム」が12月12日(日)にサン・アルプス大町で開催され、やさかボランティア隊も市民活動の団体としてパネル展示を行いました。

第1部では、「大町民話の里づくり・もんぺの会」「社会資源活用技能伝承事業・ソーシャルリソースを探せ!」「地域探求プロジェクト・信濃大町百人衆インタビュ」の3団体の発表があり、第2部「目からウロコ?地域づくりのハナシ」と題した高橋信博氏の講演がありました。高橋氏は地域の絆づくりや地域に誇りを持つために明るく快適な暮らしを実現する方法を提供し続けている方で、地域づくりのヒントを多くいただきました。



日赤八坂分団 講習会を開催



日赤八坂奉仕団では、11月29日(日)に八坂支所において、日本赤十字長野県支部地域赤十字奉仕団研修推進委員の堀口美鈴さん、柴田房夫さん、熊谷フミ子さんの3名の委員を招き、「コロナ禍における避難所体験ゲーム」と題して教材を使った講習会を行いました。もし、自分が避難所の運営をしなければならぬ立場になった時、殺到する人々や出来事に対応すればいいのか、避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたシールを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事に対応すればよいのかなど避難所の運営について学びました。



最初のうちは「〇〇さん家族3名」などとあまり悩まず配置できますが、次第に避難者シールの内容は難題が増え、「ネコと一緒に避難」「引きこもりなので車で過ごしたい」「インフルエンザに罹っている」「トイレが詰まった」など頭を悩ませます。

今回の講習会の目的は、自分で課題に気づき、その課題に対して何を準備するのかを考えることで、実際の避難所運営にあたっては、特に高齢者や子供などの社会的弱者及び認知症の方に配慮することが重要になります。この講習会で得られた貴重な体験が、災害時の避難所運営に生かさればと思います。

避難所の運営について興味深く感じたことはまず、体育館内に通路を作っておき人の行き来をスムーズにすること、いちばん目に付きやすいところに受付、掲示板の場所を確保し、避難者の名簿を作っておくことが大事だということです。

赤土ポケットパーク イルミネーション

国道 19 号線沿いの赤土ポケットパークでは、「上箆郷土文化を発展させる会」の皆さんにより、毎年恒例のイルミネーションが飾られ、冬の夜を彩っています。

年々、華やかに飾られているイルミネーション、お近くを通られる方は、ゆっくりとご覧になってみてはいかがでしょうか？

点灯期間は、令和 3 年 1 月 9 日まで。毎日午後 4 時から午前 0 時まで点灯しています。

くれぐれも、わき見運転には気を付けてくださいね。



鷹狩山展望台

北アルプスの案内図がきれいになりました！



鷹狩山展望台に設置してある北アルプスの案内図は、塗装の退色や剥離が進み傷みが目立っていましたが、地域おこし協力隊の永澄祭（ながと まつり）さんが前職の経験を生かし 1 カ月半ほどの作業で、北アルプスの山並みが見事きれいになりました。春には、ぜひご覧ください。

* 鷹狩山への道路は冬期間（12 月～3 月末）通行止めとなっています。



野平自治振興会では 11 月 29 日（日）、集落ごとの道路愛護会の後ラベンダー園の整備を行いました。野平中のラベンダー園は野平中、瀬口のラベンダー園は野平南、野平北、地志原、池の平の皆さんがそれぞれ整備を行いました。例年は株の剪定と草取りを行います。今年は異常気象の影響が剪定を必要とするほど伸びていなかったため、周辺の草刈りと草取りを行うだけにしましたが、枯れてしまった株も多く、春には早々に植え替えに取り組みなければいけないと思いました。例年は当日、役員の方々がほとんど焼きの力や刈り準備も併せて行いますが、今回は正副会長

野平ラベンダー園の整備



で準備を終えていただいたので助かりました。瀬口のラベンダー園は防草シートも経年劣化が進み傷んできており、雑草がはびこっています。今年度は、防草シートの張替えも検討しなければいけない時期にきています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年の野平ラベンダーまつりの中止については、残念だという声を多く聞きました。今年は様々な安全策を講じて何とか開催できれば良いと思います。

野平地区編集委員 丸山郁夫



定住促進住宅

栃沢地区に2棟完成！



平成22年度から過疎地域自立促進計画に基づき、八坂・美麻地区に、都会などからの移住や若者の定住を促進するため、空き家等の有効活用とともに、定住促進住宅の整備を進めております。

八坂地区内では、平成26年度に切久保地区へ2棟、矢下地区へ1棟、平成27年度～28年度に野平地区へ4棟、平成29年度に矢下地区へ2棟建設されました。合併前の13棟（明野集合4戸を含む）と合わせ22棟となり、現在、24世帯81人が入居されています。

入居されたみなさんは、それぞれの地域住民の一員となって地域活動を行っています。

また、今年度には栃沢地区へ2棟建設し、3月末までに入居していただく予定です。

Trick or Treat!



10月・11月は、コロナ禍ではありますが、気を付けながら色々な行事ができました。ハロウィンの行事では、子どもたちそれぞれが違うコスプレをして出掛けました。八坂小学校の1・2年生とハロウィン交流をしました。教頭先生もジャック・スパロウ（映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」の海賊）に変身してきてくれ、子どもたちも大喜びでした。その後、みさかや八坂支所、八坂公民館にも行き「トリック・オア・トリート」と声掛けをすると一人ずつ素敵な物を頂き「楽しかったね。また、来年もやりたいね」と話しました。

地域の皆さま、ありがとうございました。

たけのこ保育園



12月に入り、八坂の山々は雪化粧。保育園では、園児たちが元気に雪遊びを楽しみました。保育園の玄関には、可愛いらしい雪だるまが飾られていました。



10月の終わりには、笹尾の深澤勝敬さんのリンゴ園にて、親子で恒例のリンゴ狩りをさせていただきました。真つ赤なりんごや小りんごを頂き、加えて大根抜きまでさせていただき本当に嬉しく、楽しい経験でした。

11月は、山雅のサッカー教室や「人形劇団やまんば」と「トライアングル」の鑑賞もあり：ワクワクいっぱい、楽しく過ごしました。

全校持久走記録会



お家の人たちに応援してもらい、低・中・高学年に分かれて、みんな元気よく走りました

八 坂 小 学 校

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時休業のため、これまで通常の授業参観ができませんでしたが、事前の健康チェックと感染防止対策をしっかりと行い、11月20日（金）に今年度最初の通常授業参観を行いました。

3時間目は、全校持久走記録会を実施。今年は、熊出没警報のために8月から全校が臨時バス通学となり、徒歩通学による体力作りの機会も大幅に減ってしまいました。子どもたちは朝や休み時間・体育の時間の練習に取り組み、記録会当日も元気に走りまわりました。4時間目と5時間目は、各学年ごとに教室等での授業を見ていただきました。

授業参観の様子をご紹介します。

1年生

教科：国語

「ともだちのこと、しらせよう」で、分かりやすく友達に伝える勉強をしました。



2年生

教科：国語

「お手紙」という心温まるお話を劇にして発表しました。



3年生

教科：道徳

「みんながくらしやすい町」について、いろいろな人のことをみんなで考えました。



4年生

教科：国語

「ごんぎつね」の登場人物の気持ちについてみんなで考えました。



5年生

教科：道徳

「一人一人の命の大切さ」について、話し合いました。



6年生

教科：国語

「みんなで楽しく過ごすために」というテーマで意見交換をしました。



家庭科授業支援 ～ミシン学習ボランティア～

5・6年生の家庭科の授業「ミシンを使った実習」では、渡辺恵子さん、弓削宏代さん、眞鍋和子さんの3名の学習支援ボランティアの皆さんに、ミシンの扱い方や上手な縫い方等について、ご指導いただきました。

児童たちからは、「ミシンの使い方がよく分かった。」「良い作品ができた。」と感想が聞かれました。ありがとうございました。





やまびこ祭の「しゃべり場 やさか」で八坂の活性化のために中学生として何ができるか話し合いました。そこで出された意見の中から「フォトコンテスト」を生徒会主催で実施することとなり、小中学生、地域の皆様から58点の応募を頂きました。八坂の春夏秋冬の景色、犀川のラフティングや切久保の棚田、どの作品からも郷土愛が伝わってきました。



11月24日(火)に審査を行い、どの写真からも八坂らしさが伝わってきて甲乙つけがたく悩みました。

応募いただいた作品をアルバムにまとめ八坂支所、八坂公民館、八坂診療所、八坂小中学校等に展示させていただきます。また、八坂公民館から昔の相川トンネル掘削等の懐かしい写真もお借りして展示しますので、楽しみにしててください。



力作が多く、審査に頭を悩ます生徒会役員と小浪地域振興支援員

育てる会 TEL:26-2306 HP:www.sodateru.or.jp

山留の風

第45回収穫祭

今年も、自然の恵みへの感謝やお世話になっている皆様への感謝を学園生が表現する場として、収穫祭を開催しました。

11月21日(土)〜22日(日)
天気：晴れ

1日目は、農事の報告と感謝の式を行いました。農事の報告では、学園生が春から行ってきた稲作や畑作の体験について発表しました。その後、「感謝の式」として、新米や野菜を祭壇にお供えし、自然の恵みへの感謝を込めて、ささやかな新嘗祭を行いました。

2日目は、八坂小学校の体育館をお借りし、保護者や農家さん、ご来

賓の皆さんの前で学園生がステージに立ちました。午前中は「自分が興味をもったこと」「ここ、八坂美麻でしかできないこと」をキーワードに各自が体験してきた事を発表しました。

午後には、春から取り組んでいた太鼓や民舞の10演目を皆で繋ぎ、感謝と成長を表現しました。途中、「心の収穫」として、山村留学の生活で得た成長や気づきを一人一人が発表しました。例年と違う形となり、慣れないステージの発表に緊張も大きかった学園生ですが、協力して発表を進め、最後には「なんとか成功かな!」と充実した笑顔を見せていました。

今回は、感染症対策のため内容や人数の規模を制限し、地域の皆様を広くご招待することができませんでした。皆さんの地域の皆様の支えがあって無事に収穫祭を終えることができました。日頃からのご理解とご協力に、心から感謝いたします。ありがとうございました。





小学校の活動～秋のやきいも集会～

11月4日（水）、秋空のもと、全校で楽しみにしていた『やきいも集会』を行ないました。

休み時間を使い、縦割り班ごとにさつまいもを傷つけないように手で丁寧に洗い、濡らした新聞紙で巻いて、アルミホイルに包みました。水の冷たさに我慢しながら、おいしい「やきいも」になることを願って、子どもたちは頑張っていました。

今回も学校支援ボランティアの北澤豊繁さんに、火の管理等中心にお手伝いしていただきました。

焼きあがるまでの間、リーダー委員会が考えてくれた〇×クイズや並びっこゲーム、鬼ごっこをして遊びました。

例年では、外で班ごとに食べるのですが、コロナ感染予防のため、教室で食べました。ホクホクのやきいもを食べる子どもたちは、「やわらかくて、おいしい!」「トロトロしていて、あまいよ!」「汁がこぼれてきた!」



と、子どもたちの笑顔もたくさんこぼれていました。

生徒を代表して、児童会長の吉田心優（みゆう）さんの感想をご紹介します。

「北澤さん、火の管理をしてくれてありがとうございました！みんなで育てたさつまいもは、とても甘くておいしかったです。外で話をしながら食べられなかった事は、残念でした。来年は、全校で外で楽しく食べることができるよう願っています！」と元気に答えてくれました。

これからも子どもたちの元気な声が、八坂の山々に響きわたることを楽しみにしています！



地域で子どもを育てるための コミュニティ・スクールの集い

12月9日（水）に八坂学校運営協議会主催の「コミュニティ・スクールの集い」が開催され、地域の方々や小中教職員、保護者など38名の参加がありました。

はじめに八坂小・中学校校長より、活動報告をしていただき、講師に前川浩一氏（文科省総合教育政策局 CS マイスター、美麻小中学校地域学校協働コーディネーター）をお招きし、講演が行なわれました。テーマは『機能するコミュニティ・スクールを育てよう～地域学校協働活動がみんなを幸せにする～』で、「コミュニティ・スクールの他地域の現状を知り、その目的や働きについて理解を深めるとともに、八坂小中学校一貫教育において私たちは何ができるかを考え合い、よりよい方向を探っていくことを目的」としています。美麻小中学校の今までの取り組みや継続している取り組みが紹介され、子どもたちの「地域に貢献したい!」という思いに参加者は感心しきりでした。グループワークでは、限られた時間の中、たくさんの前向きな意見も出て、参加者それぞれの八坂に対する地域愛を共有する事が出来て、とても有意義な時間を過ごすことができました。



八坂公民館では、関係機関や団体の皆さんによる実行委員会を組織し、10月24日（土）、25日（日）に八坂小学校において文化祭を開催しました。

今回は、コロナ禍であり、感染防止対策を徹底しての開催となりましたが、当日は300人を超える皆さんの参加がありました。

会場内には、小学校やたけのこ保育園、山村留学生の展示をはじめ、書道、陶芸、老人クラブによるこけ玉など、団体や個人の皆さんによる力の込められた作品が並びました。

ステージ発表では小学生の寸劇や山留太鼓などの発表に続き、大正琴の演奏や善亭青空（よしていあおぞら）さんの落語、ふれあい倶楽部による舞踊、ゴゼ岩伝説の読み聞かせなど、多彩な活動の成果が発表されました。

八坂地区文化祭

規模を縮小して開催

特に、中学校のプラスバンド演奏では、会場内からアンコールを求める大きな拍手が沸き起こり盛り上がった発表となりました。

また、駐車場などで行われた賑わい広場では、農協や郵便局の物品販売に加え刃物の研磨やフリーマーケットなどが行われ、賑わいを見せていました。

今回は規模を縮小しての開催となりましたが、数少ない貴重な発表の場となり、地域活動の日常を取り戻し、元気になれるイベントとなりました。



日々の活動の成果を発表！



「八坂塾」

八坂の巨岩と鳥立城址を巡る



八坂公民館では、10月31日（土）に文化財センターとの共催講座として、巨岩と鳥立城址を訪ねる講座を行いました。

当日は、美しい紅葉の中、天候にも恵まれ40人を超える参加者があり、育てる会センターから切久保の東方にある権現山を経て、尾根伝いに鳥立城址を散策し、約3時間の山歩きと遺跡巡りを満喫しました。権現山

の頂上付近には、権現岩がそそり立ち、さらに尾根伝いに歩いていくと鳥立岩、烏帽子岩などがありいずれも家ほどもある巨岩です。

また、鳥立城跡は、権現峰付近にある空堀をはじめ、東方に続く尾根沿いにはいくつかの郭や土居の跡があり、いずれも人工的に作られた形跡が残され、遠い昔の戦国時代に思いを馳せることができました。

巨岩の成り立ち

今から500万年以上前、市内では社地区付近を南北に縦断する糸魚川静岡構造線から東側は海だったと考えられています。

八坂地区も海でしたが、長い年月をかけて隆起し、現在に至っています。地区内の地質は、海の中で積もった泥や砂が固まった泥岩や砂岩が多く、陸地になって川や風雨に削られ、巨岩が露出している地形が見られます。権現岩やゴゼ岩をはじめとする巨岩も泥岩であり、海の泥が固まり隆起したものです。



鳥帽子岩（えぼしいわ）

鳥立城址とは

仁科氏の城砦群の一つ、鳥立の名は、城址の東下側にあった鳥立集落によるものですが、大塚からみて、西の方角にある館（たち）ではないかとも推測されます。連郭式の山城であり、稜線上に郭や帯郭、土居、空堀などがあります。（村誌から）



空堀跡

（からぼりあと）

八坂地区子育てセミナー「民話を親子で楽しむ」



子育てセミナーを11月28日（土）に八坂公民館で開催しました。このセミナーは、例年、ものづくり体験を行ってききましたが、「密」が避けられないため、今回は「大町民話の里づくりもんぺの会」の皆さんによる公演を聞くセミナーとしました。

八坂に伝わる「金太郎」伝説や下仲町の「足の化け物」など、感情豊かな語りと紙芝居、オカリナの演奏、紙粘土人形の展示がなされ、目と耳で楽しむことができました。

現在は、八坂でも民話や伝説を聞く機会が少なくなっています。心温まる民話を後世につなげていくためにも大変貴重な機会となりました。

くりやま ゆうき 栗山 雄大さん あい 愛さん みお 澤さん (大平)

昨年、の定期異動で八坂駐在所に参りました、栗山雄大(くりやまゆうき)と申します。白馬村出身(身)と申します。家族は妻の愛(あい)と長女の澤(みお)1歳)の3人です。前任地は松本空港にある航空隊で勤務しており、ヘリコプターからの山岳遭難救助を専門に行っていました。

大町署の勤務は以前から希望していましたが、地元が近いので叶うことはないだろうと心の奥で思っていたので、大町署の八坂駐在所で勤務ができることを知った時は、とても驚いたのと同時に何かの縁を感じました。

八坂は、両親の仕事関係で

令和2年3月から、八坂駐在所に勤務されている栗山さんご一家を紹介します。



お付き合いさせて頂いていることもあり、私が小さい頃は父親に連れられてよく来たのを覚えています。

とは言いつつも、小さい頃の記憶でほとんど覚えていなかったなので、八坂はどんなと

ころなんだろう？との思いでやってきましたが、周りの景色のすこさがとても印象的で、どことなく実家に似ている雰囲気もありとても居心地が良かったです。たけのこや山菜が有名というお話も聞いており、山菜が大好きな私としてはとても楽しみにしていました。(大変美味しくいただきました。)八坂に来てからは、休日には鷹狩山まで走りに行ったり、家族で散策したり、また初めて家庭菜園にも挑戦しました。

今年はトマトとナスを育ててみたのですが、ちょうど食べ頃になった時にはサルにやられてしまったので、次回はサル対策も含めて挑戦をしたいと考えています。

今年の冬は昨年とは違い、多くの降雪が予想されるとの噂もありますので、車の運転等々十分お気を付けて頂ければと思います。

県警山岳救助隊に所属し、駐在所と兼務しているため、駐在所が多々あることかと思いますが、地域の皆様と慣れ親しみながら精一杯勤めさせて頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

二〇二〇年の新語・流行語大賞を見て、「3密」「アベノマスク」「GOTOキャンペーン」などコロナ関連の言葉が並び、あらためて二〇二〇年は新型コロナウイルスに振り回された一年だったと感じます。ウィルスの感染や、世界経済への悪影響などに怯えながらの日々だったので、はないでしょうか。その一方で、「テレワーク」や「Zoom会議」などの働き方改革が進んだ職場があったり、ステイホーム期間中に、ずっとできないでいた家の片付けができたとか、新しい趣味を見つけたとか、新しい趣味を見つけたなどのポジティブな話も耳にします。世界を揺るがすほどの大きな力で人々の生き方や考え方を変えるきっかけになったのは間違いのないでしょう。どんな苦境に立たされても、ポジティブな考え方で乗り越えていける人でありたいとあらためて感じました。

二〇二一年は良い年でありまうように。

切久保地区編集委員

吉原克巳